

新型 SI について

従来型からの改良点

滋賀県オリエンテーリング協会
大島健一

オリエンテーリングの通過証明に使用される SI 社の器具に新型が登場している。従来型との改良点について説明する。

2つのシステム

現在オリエンテーリングの世界には主に2つの電子パンチングシステムが存在しています。ひとつは Emit 社によって開発されたシステムであり、国内では主に Emit と呼ばれています。もうひとつは SPORTident 社によって開発されたシステムで、主に SI と呼ばれています。いずれのシステムもコントロールユニット、通過記録媒体（カード）、ソフトウェアから構成されています。

2つのシステムの一番の相違点は、時計をカード内に持つか持たないかにあります。Emit の場合はカード（Ecard）内に時計を持つため、スタート時に Ecard の時計の起動（アクティベーション）を行うことで、事前のコントロールユニットに対する準備は不要であるという大きなメリットがあります。

時計あわせが大変だった旧 SI

それに対して SI は、カード（SI カード）内に時計を持たずコントロールユニット（ステーション）内に時計を持ち、データのみを SI カードに記録するため、大会前にすべてのステーションの時計合わせを行わなくてはならず、しかもこの時計合わせがかなり精神的緊張を強いる作業だったため「SI は準備が大変だ」という認識を生む原因となりました。

従来型の BSF6 型では「時計合わせ」を PC を用いてすべてのステーションに対して行う必要があったため、特に大量のステーションを用いる大会では直前に細密な作業をパーフェクトに行う必要がありました。

新 SI は時計合わせが楽

この欠点を解消するために開発されたのが、俗に「新型 SI」と呼ばれる BSF8 型ステーションです。

BSF8 型では「SI マスターステーション」が導入され、PC による設定はこの

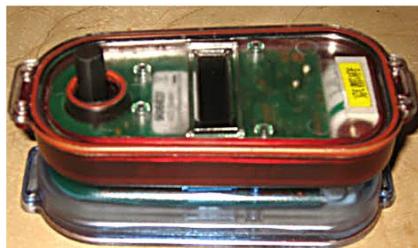
SI マスターステーションのみに対して行い、個々のステーションへの時計合わせ（稼働時間設定を含む）はすべてこの SI マスターステーションを介して行われるため（操作はステーション同士を重ね合わせるだけ）、準備にかかる時間と精神的緊張が飛躍的に軽減されました。実際に SI 講習会では全く事前準備のない状態からステーションの準備を行います、準備は会場内ではほぼ30分以内に完了します。



SI マスターステーション
PC で時刻あわせを行うのはこの1つだけ



セットする対象の SI ステーション
これはコントロール数だけ準備する



マスターステーションと通常ステーション
を重ね合わせるだけで時刻あわせは完了

使いやすくなった新型 SI

また、BSF6 型ではステーションの起動時刻と停止時刻を年月日レベルまで設定する必要があったため、この設定を間違えたために大会当日に全ステーションが起動しないという悲惨なトラブルに見舞われることもしばしば起こりました。

これに対して、BSF8 型では起動・停止を時刻で設定するのではなく、起動後の稼働時間を設定するように変更されています。ステーションの起動はフ

ーストパンチにより行われます。万が一設定稼働時間を超過しても、再びパンチを行うことで起動させることができます。

BSF8 型の改良点はまだいろいろとあるのですが、その説明はまた別の機会に譲りたいと思います。

大会準備という視点から見た場合、Emit と比較してステーションの事前準備というひと手間がかかることに変わりはないのですが、新型 SI を使用することでその準備は従来と比べて格段に楽になりました。SI カード内に電池を持たないことによるメディアの長寿命、音と光により記録を確認できる安心感、通過記録データがコントロールにも残るバックアップ性など SI システムのメリットもありますので、もし準備の煩雑さで SI システムを敬遠されていたのであれば、今後はぜひ使っていただけたらと思います。

（大島健一）